

2022年6月22日(水) 第7限

1年キャリア教育特別講座 『ミライの選択～意思決定の方法～』

河合塾 中部営業部 担当部長 西山直志氏

文理選択を目前にしている1年生の生徒に対して、総合的な探究の時間を用いてキャリア教育特別講座を実施しました。人生の節目にはたくさんの選択の場面があります。そのときに、直感やその場の雰囲気や決めたり、自分以外の誰かの考えで決めたりするのではなく、自分自身で考え、納得した上で決定する方法を学びました。



【 総合評価法 】

- ・選択肢×判断基準
 - ・判断基準には「重み付け」をする
 - ・総合点で考える
- 可視化することで、説得力が増し、
自他共に納得感のある意思決定ができる

講演では、「部活動を継続するかどうかを悩む高1のS君」を例に、「テニス部を続ける・部活をやめる・卓球部に転部」（選択肢）と「人間関係・勉強時間・レギュラー」（判断基準）を点数化したものを表に記入して、どの選択肢が良いか判断する経験をしました。また「先輩のしくじりから学ぶ」という総合問題では、先輩の意思決定の機会（分岐点）における「しくじり」を周りの人と話し合いながら、分析したり、具体的なアドバイスを考えたりしました。高校生にとって身近な題材を用いてのワークショップであり、積極的に取り組む姿が見られました。

講演後の生徒の感想

- ・私はまだ文理や大学や学部などがはっきりとしておらず、将来がぼんやりとしています。今日学んだことや総合評価法シートを活用して、納得のいく選択ができるよう真剣に考えていきたいです。やりたいことを追求できる大学生活を過ごせるようにしたいです。
- ・意思決定の際に、具体的に数値化して考えることで、プラス面とマイナス面がはっきり分かると感じました。総合評価法を実践して、私が将来なりたいと考えている数学の先生は、一番点数が高くなったのですが、今後も進路や人生についてしっかり考えていきたいです。
- ・今まで自分がしてきた選択は本当の自分の選択ではなかったかもしれないと思いました。親や友達などの意見を尊重して聞くことも大事ですが、最も大事なのは自分の意見だと気付きました。小さな決断でも自分の意見に責任をもてるように、日々の授業などですぐに他人の意見に流されないように意識しようと思いました。

